

「蕎麦屋の只今ただいま」、「紺屋の明後日あさって」とは？

「蕎麦屋の只今」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？

そばの出前を注文したのですが、なかなか届かないため痺れを切らして催促したところ、「今ちょうど出たところです」と曖昧でいい加減な返答をすることというそうです。「紺屋の明後日」もおよそ同意で、紺屋は干すのが天候に左右されるので、お客の催促には、いつも「明後日には」と言い抜けていたといいます。

いい加減な返事の代表にされるくらいですから、蕎麦屋の出前も当時（江戸時代後期）は一般的だったのでしょう。現在でいえばピザのデリバリーといったところででしょうか。もつとも、ピザの方は約束時間内に届かないと代金無料とも聞きますから大違いとも言えますね。

そんな「蕎麦の出前」が何時ごろから始まったのか調べてみると、案外古く、江戸中期、寛文年間（一六六一～一六七二年）とも、享保年間（一七一六～一七三五）だともいわれています。いずれにしても明暦の大火（振袖火事・一六五七）

以降の「新吉原」時代の頃だと思われまます。面白いことに実はこの新吉原こそ出前発祥の地だと言われているのです。遊女は仕事以外には外出が許されないの

で、夜食に出前を頼んだのが始まりだというのが通説になっています。またお客の夜食も吉原では自前の調理場を持つていないため、仕出しや出前を取っていたそうです。というわけで遊郭や花街の近くには必ず出前をするそば屋やうどん屋があったそうです。

吉原だけでなく、相前後して江戸時代の商家では月末にそばを食べる習慣が広がっていました。当時の商売はほとんどが「ツケ」で月末払いだったので、商家では月末になると集金や棚卸しに主人から奉公人までが総出となり大変忙しかったので、仕事が総て終わるとそばの出前をとって従業員を慰労するのが何時しか習慣になったのだといえます。

そばは値段も適当で、食べるのも簡便なので、健康・長寿・金運などゲン担ぎもあって好まれたのでしょう。月末みそか三十日が転じて「晦日みそか」と呼ばれるようになったといわれています。今日でも大晦日に「年越しそば」を食べる習慣がありますが、これは「晦日そば」の名残なのです。

江戸末期頃になると蕎麦屋の仕事も、そばを打つ「板前」を筆頭に、茹でて盛り付ける「釜前」、種物を作る「仲番」、お客さま対応をする「花番」等と並んで出前の仕事も「外番・かつぎ」と呼ばれる独立した専門職種になっていました。

そばは生ものです。時間が経つと伸びてしまうのでスピードが命でした。また花街や商家等への出前が主だったので一度に多量の蕎麦を届けなければならな

いことが多く、足が速く体力があることはもちろん、熟練した技術を持った若者が必要でした。豆しぼりの手ぬぐいで向こう鉢巻を締め、赤い腹がけに印半纏、素足に草履ばきで、天秤棒の先に出前箱をつけ、花街や商家を疾駆したいなせな担ぎの姿は時代の風物詩であったようです。

また、この頃になると出前専門のお店も出来てきて、店売り専門店（個人客）と出前専門のお店（法人客）といった具合にお客を上手に分けて、競争を避ける手段でもあったようです。今でいう「差別化マーケティング」をやっていたわけですね。

やがて「杜氏宿^{とうじやど}」と呼ばれる麵類職人派遣請負業が生まれ、幕末頃には美男、子安、大芝等の屋号を持つ「口入れ屋」が約三十軒もあり、明治三十年頃でも有力な宿（口入屋）が十六軒あったといえます。蕎麦屋と職人からそれぞれ「月並み」と称する手数料を納める仕組みになっていて、見込みのある者には宿に住み込ませて技術の習得もさせていたようです。この宿に待機するそば打ち職人は寄子^{よりこ}と呼ばれ、腕自慢が多く自負心が強いので、店を次々と渡り歩き、宵越しの金は持たないといった暮らしで身を持ち崩し、哀れな最後をとげた者もあったようです。そこで、有力な杜氏宿の一つだった「美男」の初代田中徳三郎^{やなか}が、谷中の長命寺に「麵類杜氏職寄子中之墓」を建て供養をしたといえます。

歌舞伎十八番「助六由縁江戸桜」（助六）の見せ場の一つに福山（蕎麦屋）の



出前持ち（かつぎ）が「美男、子安や馬の鞍、六軒堀を飛び出して、大芝、芝を食いつめて原田屋の子分となり……」
と長々と啖呵を切る場面がありますが、台詞に出てくる
「美男・子安等……」は杜氏宿のことなのです。

時代が下って明治・大正のころになると、「出前膳」と

いう蒸籠せいろうやどんぶりを載せて運ぶ平盆が普及し、これを「手持ち」や「肩持ち」というやり方で、三〇、四〇枚とうず高く積み上げ、自転車に片手ハンドルで街中を駆け巡るといふ職人技が外番（かつぎ）の見せ場だったといえます。今は懐かしい風景です。

が……、昭和も三〇年代に入ると、交通量が増加し事故が多発するようになったので、出前盆の上に載せた料理を早く安全に運べるように工夫された「出前機（正式名称は出前品運搬機）が考案され、これをバイクや自転車に取り付けて出前をするのが一般的になったようです。

杜氏宿も戦後は職業安定法が制定され廃止される運命を辿ったのです。

降る雪や明治は遠くなりけり

中村草田男